

2. 木曾三川の治水の歴史

江戸時代までの治水事業

- ◆16世紀頃から輪中や敷地を盛土した水屋などの水害対策が行われました。本格的な治水事業として現在に伝えられているものは、豊臣秀吉によって文禄2年(1593)から始められた「文禄の治水」です。
- ◆江戸時代初期、木曾川左岸(犬山市から弥富町までの約4.7km)に「御囲堤」が築堤されました。
- ◆宝暦4年(1754)に薩摩藩による御手伝普請によって、逆川洗堰、大樽川洗堰、油島の締切り工事を中心とした「宝暦治水」が行われました。

明治時代の治水事業

- ◆オランダ人技術者ヨハネス・デ・レーケを迎え、三川を完全に分流する「木曾川下流改修計画」を明治20年(1887)に策定し、明治45年(1912)に完成しました。

大正時代～昭和初期の治水事業

- ◆大正10年(1921)に木曾川上流改修計画を策定し、木曾川上流部の派川の締切り等によって流路の整正を行う改修工事、長良川の古川、古々川の締切り工事などを行いました。また、計画の流量を見直し、堤防の改築、掘削、浚渫の改修工事を行いました。

戦後～現在の治水事業

- ◆戦後では、昭和28年度以降改修総体計画、昭和40年の工事実施基本計画、平成18年の木曾川水系河川整備基本方針など計画の策定、見直しを行ってきています。これらの計画では、木曾川、揖斐川で洪水調節を位置づけ、木曾川と支川では丸山ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダムを、揖斐川では、横山ダム、徳山ダムを整備しています。
- ◆木曾川では、美濃加茂市、坂祝町で甚大な被害が発生した昭和58年9月の出水などを踏まえ、昭和61年に治水対策も含めて治水・利水機能が向上する新丸山ダムの建設に着手しています。また、木曾川右岸で、築堤及び護岸等を新設する事業を平成元年に完了しています。
- ◆長良川では、昭和63年に長良川河口堰に着工し、洪水時の水位を下げる河道の浚渫を昭和46年～平成9年に行っています。一方、昭和51年9月洪水により、長良川右岸堤防が決壊し、安八町・大垣市(旧墨俣町)などで甚大な被害が発生し、この災害復旧として、安八町・大垣市一連区間の堤防強化、伊自良川の川幅の拡幅(引堤)、沿川内水地域の排水強化などを行っています。さらに、平成16年10月の台風23号出水では、既往最大流量を記録し、一部区間で危険水位を超えたことから河道掘削を行いました。
- ◆揖斐川では昭和50年8月出水で既往最高水位を記録し、昭和51年9月出水と相次ぎ、支川氾濫や大垣市内で内水による被害が発生しています。さらに平成14年7月洪水では、昭和50年出水に迫る水位を記録し、根尾川でも既往最高水位を記録するとともに、大垣市で浸水被害が発生しました。平成20年には徳山ダムが完成し、揖斐川の治水安全度が大きく向上しています。

